

藝

GEI RIN

林

第五十八卷 第二号

平成二十一年十月

今上陛下の御製

平成十一年 昭和天皇十年式年祭を終へて
父君の思出おほき大相撲 年の始めの土俵に見入る
平成十二年 母君（香淳皇后）みまかりまして
あまたたび通ひし道をこの首は 亡き母君をたづねむと行く
平成十三年 明治神宮鎮座八十年に当たり
しろしめしし御代かへりみて日本の もとみ成りたる様をしのびぬ
平成十四年 正倉院
千歳ちとせ越えあまたなる品守り来し 人らしのびて校倉まがらあぶぐ
平成十五年 奄美大島訪問
復帰より五十年経たるを祝ひたる 式典に響く島唄の声
平成十六年 歌会始 御題「幸」（十五年で全国二巡）
人々の幸願ひつつ国の内 めぐりきたりて十五年経つ
平成十七年 歌会始 御題「歩み」（主要戦闘三巡拝）
戦いくさなき世を歩みきて思ひ出づ かの難き日を生きし人々
平成十八年 孫（悠仁親王）誕生
我がうまご生れしを祝ふ日高路ひたかぢの 人々の声うれしくも聞く
平成十九年 ラトビア占領記念館
シベリアの凍てつく土地にとらはれし 我が軍人いくさうぢもかく過しけむ
平成二十年 第六十三回国民体育大会 大分県
過ぎし日の国体の選手入り来たり 火は受け継がる若人の手に
(宮内庁編『道（平成11年〜21年）』NHK出版より）